

# 沖縄教区時報

発行所  
日本聖公会 沖縄教区  
〒901-2102 浦添市前田3-3-5  
電話 (098) 942-1101  
編集責任 教区事務所  
(1部20円)

## 「仲直りの恵み」

司祭 クララ 咸 ユンスク



ACC19(第19回全聖公会中央協議会)の報告書を読み、聖公会が大切にしてきた「via media(中道)」の姿勢が、改めて心に響きました。葛藤や意見の違いがあっても、「もう別れよう」と結論を急ぐのではなく、それでも共に祈り、対話を重ねながら歩み続けようとする姿勢です。

若い頃の私は、そのような聖公会の在り方にもどかしさを感じ、「はつきり決着をつけた方がよいのではないか」と思ったこともありましたが、しかし年齢を重ねるにつれ、私たちの時と神さまの時は違

うことを教えられてきました。神さまは、私たちが思う以上に忍耐深く、一人ひとりを待ち続けてくださるお方です。今月、ともに味わいたい聖書の言葉は、マタイによる福音書18章21節から35節です。ペトロがイエスさまに、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか」(18:21)と尋ねると、イエスさまは、「あなたに言っておく、七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」(18:22)とお答えになりました。この言葉は、赦す回数を数えなさいという教えではありません。赦し続ける生き方へと私たちを招く言葉です。調べると「赦し」には、手放すこと、解き放つこと、負債を免除すること、自由にするなどの意味が含まれていました。赦しによって

自由にされるのは、相手だけではなく、自分自身でもあるのです。しかし現実には、赦すことは決して簡単ではありません。頭では赦した方がよいと分かっているのに、心がついていかないことがあります。「どうしても赦せない」という思いを抱え、自分自身に失望することもあります。イエスさまのたとえ話には、主人から莫大な借金を赦された家来が、自分にわずかな借金のある仲間を赦さなかった姿が描かれています。私たちも神さまから計り知れない恵みと赦しを受けながら、その恵みを隣人へ向けることの難しさを経験します。それでも神さまは、そのような私たちの弱さをご存じです。「赦したけれど赦せない自分」を抱えたまま歩んでいる私たちを責めるのではなく、神さまは今日も忍耐をもって導いてくださいます。赦しは一度で完成するものではなく、神さまの時の中で少しずつ育まれていく恵みなのだと思います。小さな証しをお話しします。

私にとって「赦し」とは、仲直りすることでもあります。私が沖縄へ来た頃、心の中には一つの壁がありました。日本へ宣教師として遣わされたながらも、心のどこかで日本という国を好きになれずいました。そこで私は「国際的なスポーツの試合で、心から日本を応援できるようになら、日本に住み続けてもよいと思えるだろう」と、自分に言い聞かせていました。ところが今年、ワールドカップやバレーボールの試合を観戦しながら、自然に日本を応援している自分に気づきました。その時、自分でも驚きました。これは長く日本で生活したからでも、自分の努力によるものでもありません。神さまが多くの方々を通して、固く閉ざされていた私の心を少しずつ溶かし、癒やしてくださったのだと思います。時々はかかりましたが、私は日本という国と仲直りすることができたのだと感じています。そして、それは私自身の力ではなく、神さまが与えてくださった赦しと和解の恵みでした。

イエスさまが語られた「七の七十倍までも赦しなさい」という言葉は、赦しに終わりがなく、自分を教えています。神さまは、私たちが人と仲直りし、自分自身とも仲直りできるように、今日も忍耐強く導いてくださいます。その恵みに信頼しながら、一日一日を歩んでいきたいと思っています。

(石垣キリスト教会牧師)

愛する良子さんにお別れ、感謝の言葉を伝えに来た元諸聖徒保育園職員4名で、思い出話しの時を過ごしました。誰もが「料理上手だったね」グラタン、レモンケーキ、チリコンカン、ローストポーク、まるでレストランみたい。大皿に盛り付けテーブルに並ぶ料理を笑顔で食す場面が1番に思い出される。一人ひとりが満たされ賑わっている横でビールを飲む姿が懐かしい。

沖縄そばが大好きで意外とマックやA&Wも喜んでいた。秋子おばさんとは漫才コンビだった。司祭さんやシスターとの繋がりも深く聖公会のお母さんの存在。教会の為にご奉仕された生涯だったかな。

「感謝」の言葉しかないです。私達の為に良子さんのアパートで料理教室。味出来栄は、ほど遠いけれども今では大きなプレゼントです。退職記念に北海道旅行、あぶらむの旅、谷主教ご夫妻・順シスター・正子さんとの十和田湖、青森の旅、ナザレ修道院、山原ドライブ、映画やコンサートにも良き思い出です。

天に召された良子さんとの数々の思い出に「感謝」。主の平安を祈ります。アーメン(R)



## 第76(臨時)教区会報告

7月20日(祝・月)に第76(臨時)教区会が開催され、主教選挙が行われた。既に選挙結果も出されているが、3名の候補者が推薦され、11回の投票を行ったが、当選者を得ることはできず、1回目の教区選挙は終了した。

今回の選挙で重要なのは、聖職議員と信徒代議員のそれぞれが違う候補者で当選に必要な3分の2を取ったということだろう。個々に考え方の違いはあるものだが、聖職と信徒ではつきりと分かれたことは色々と考えるべきものがある。それは将来の沖縄教区のイメージが聖職と信徒で違っているということでもあるのだろう。

皆さんがこの記事を読まれる頃、教役者会で次のことを提案させていただくつもりをしている。それは教役者が各教会の信徒・信徒代議員とよく話しをして、将来の教区のイメージをすり合わせてほしいということ。聖職はどのようなイメージを持っていて、信徒はどのようなイメージを持っているのか。どのような

賜物が沖縄教区に必要とされている、主は誰を沖縄教区の主教として与えようとしてくださっているのか。このことを聖職と信徒でよく話し合っていたら、9月の教役者リトリートで分かち合い、また各教会に持ち帰っていただきたいと思っている。

次回、11月に予定されている2回目の主教選挙が、私たち沖縄教区でできる最後の選挙となる。ここで当選者を得ることができなければ、私たちの手を離れて管区総会に委ねられることになる。色々大変なことではあるが、教会政治ではなく、妥協の産物でもなく、主からのお恵みとして教区主教が与えられ、私たちがその方のもとで信仰生活を歩んでいくことができるように、祈りのうちに次回選挙の準備を共に進めていきたいと願っている。

常置委員長

司祭 イサク 岩佐直人

\*\*\*

日本聖公会法憲法規において、2回の教区会で主教を選出できなかった場合、管区総会にて選挙が行われることが定められています。

## 主教告示

沖縄教区では、数年前から主教選挙の取り組みをしてまいりました。主教選挙は教区主教を選ぶのですが、同時に日本聖公会の主教団の一員を選ぶことでもあります。日本聖公会は、この2、3年で随分と様変わりしました。今年8月末に第71定期総会が開催予定ですが、前回の定期総会では11教区あり、11名の主教がおられました。ですが現在は、北関東教区と東京教区が合併し東日本教区が誕生し、10教区となりました。東日本教区は、5月23日に第1回目の教区会を開催し、主教選挙を行いました。選出者が辞退されましたので、再度主教選挙が予定されています。東北教区と北海道教区は2020年4月の合併に向け、準備を続けております。また、京都教区は去年の教区会で伝道教区となることを決断し、中部教区主教の管理になりました。京都と中部はこの4年以内に合併を目指すとのこと。現在の日本聖公会は10教区、9名の主教(内2教区は管理主教)になっています。(次頁に続く)



## 広島、長崎の平和礼拝から

●マイターボックス―主教ダビデ 上原 榮正●

今年も広島と長崎の平和礼拝に参加させて頂きました。広島では8月5日の午後、広島復活教会で学生たちと一緒に被爆証言をお聞きしました。夕方には聖公会、カトリック教会、日本福音ルーテル教会合同で、原爆供養塔前で平和のための祈りの集いを行いました。

供養塔前では、被爆者が水を求めて川辺に集まったことに因んで、水の献杯をします。原爆の何千度もの熱風にさらされた体は内部損傷を起こしており、飲んだ人はたちまち亡くなったそうです。

8月6日、午前8時から広島復活教会で平和礼拝に参加した後、長崎に移動しました。

長崎では毎年8月8日の夕に、長崎の宗教者懇話会主催の「平和の集い」が平和公園で行われますが、今年は長崎大学の講堂で行われました。翌8月9日に長崎聖三一教会で平和礼拝が捧げられ、午後、被爆者証言をお聞きしました。

長崎、広島、原爆被爆者の平均年齢は約87才だそうです。証言は小学校1年生の頃の記憶になります。沖縄戦もそうですが、幼児には、戦前戦中の人々の思い、社会の状況や生活の変化などについて語ることはできません。戦争体験者の減少は、戦争の実態を直接に聞くことを困難にしています。

広島、長崎のテレビ番組で、中高生への平和についての聞き取りがありました。彼らは異口同音に、平和とは単に戦争がないことではない。日常生活が失われること。笑顔が無くなること。夢や希望が持てなくなることが戦争。そして平和とは人が人として大切にされること、人の痛みが分かること、だと語っていました。

今、強力な力を持つ国が始めた戦争があります。でも、止められません。戦争は始めるのは容易でも、止めるのは困難のようです。それに戦争では、勝つても負けても、国家や民族の間に憎しみや争いの種が残るだけです。戦争をしないためには、根気強く対話続けるしかありません。

聖書が教えるのは、心に沸き起こる妬み、憎しみ、敵意、嫉妬、欲望などの罪と戦い、心を治めることです。そこから、平和が始まると思います。

悪を避け、善を行い／平和を求め、追い求めよ。

(詩篇34:15)

この動きは、どの教区も聖職も信徒も高齢化し、少なくなり、働き人も減少し、財政的にも厳しい状況にあるのが原因です。日本聖公会は、現在堅信受領者数は約10,000人(2025年)ですが、10人の教区主教を支えるのは無理があります。宣教協働と伝道教区制を取り入れた背景には、聖職、信徒、及び献金の減少も原因の1つですが、主教削減もあります。お隣の大韓聖公会は3教区ですが、信徒は約50,000人です。今の日本聖公会の教区数と主教の数が多いことがお分かりだと思えます。教区運営には多くの信徒と献金が必要なのです。

日本聖公会では、どの教区も人も資金も不足しています。特に沖縄教区は深刻です。日本聖公会の信徒一人の平均献金額は約83,000円(2025年)ですが、沖縄教区の信徒一人の平均献金額は約108,000円です。1番多く献金しています。しかし、現在信徒数が約250名ですから、日本聖公会の中では1番少額となります。教区、教会の深刻な問題は信徒減少です。一般には、プロテスタント教会では、1教会で1人の牧師を支えるのに、40人の信徒とその家族が必要といわれます。それだけの信徒が集まる教会が教区に幾つあるでしょうか。

ですが沖縄教区は見掛け上恵まれています。と申しますのは牧師が幼稚園や保育園の園長を兼ねてきたからです。これにより、教区は赤字にならずに運営されています。しかし日本全体の少子、高齢化の中で、保育士不足の中、保育園、幼稚園の園児減少の中、園によつては後何年、園運営が出来るか危うい状況が出ています。

教区には多くの委員会があります。殆どが教役者の皆さまが委員会の長や担当者になり、信徒メンバーは数人しかいない状況です。そのような委員運営ですから、同じ教役者が幾つも長を兼ねて、委員会が運営されています。教区としてはある意味破綻しています。沖縄教区はあと何年今の状況が続けられる体力があるでしょうか。厳しいようですが、5年から10年だと思っています。この間に教区内での教会合併、伝道教区制や教区合併など、視野に入れる必要がありそうです。しかし、勘違いをしてはいけません。伝道教区制や教区再編は教区を無くすることが目的ではありません。教区の中に新しい息吹を送り込み、活性化させることにあります。沈みつつある教会に新しい風を吹かせ、宣教、伝道をイキイキとさせ、聖職信徒がワクワクするようにすることです。

新主教になる方は、この状況で沖縄教区の舵取りをすることになります。皆さまはこれから沖縄教区をどういう主教さまと一緒に歩んでいきたいのでしょうか。沖縄教区のことを良く知っている主教さまですか。それともこれから沖縄を知っていく他教区の主教さまですか。課題の多い日本聖公会です。各教区教会です。でも、神さまの建てられた沖縄教区と教会です。きつと逃れの道も用意されているはずですよ。

神さまにお祈りして、黙想し、沖縄教区に相応しい主教を沖縄から選んで欲しいと願っています。

あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですよ。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらずに遭わせることはなさらずに試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

(Iコリント10:13)  
教区主教ダビデ 上原榮正

## 奏楽者のつどい

主催：沖縄教区礼拝音楽委員会

日時：2026年9月23日(水・祝)

午前10時～正午

場所：北谷諸魂教会

今回の主な内容は…

- 聖歌の決め方
- 前奏曲や陪餐時の音楽について
- オルガン奏法や練習の仕方について
- …等

実際にパイプオルガンを弾くこともできます！



## 西日本宣教協働区「祈りのつどい」

神戸・九州・沖縄3教区の兄弟姉妹が互いを知り、祈りを共にすることで交わりを深めたいとするつどいです。どうぞご参加ください。

第40回：9月17日(木)

担当：九州教区

① 13:00～ ② 19:00～

ZOOM ID：468 123 1279

パスコード：762780

9月の祈りのつどいは、少しでも多くの人が参加しやすいように、昼の部(13時～)と夜の部(19時～)の2回行われます。どちらか、参加しやすい時間にぜひご参加ください。



## 教区婦人会報告

### 日本聖公会婦人会総会参加報告

詩編84編・詩編100編をもつて感謝と共に、2026年婦人会総会報告をいたします。

6月16、17日の2日間・大阪教区守口聖オーガスティン教会での開催となりました。

総会においての報告は、感謝箱献金のお献げ先の「アトウ トウミヤンマー」、日本バプテ

スト連盟高規バプテスト教会、共同代表マ・キンサンサン・

アウシ牧師より。紛争の中にあるミャンマーの子供たちの

生活苦難の中にある住民の様子のメッセージがありました。

二日間の総会、どの課題もそれぞれの思いが詰められて

いました。被献日献金活用申請の審査・報告があり、諸報告・議事が主の静寂に包まれ

流れるように進められました。

日本聖公会婦人会は、苦難の時代を生き抜いた人々の祈りと希望をいまなお宿しています。

歴史が織りなす祈りの日本聖公会婦人会は、北海道から沖縄までの婦人たちの未来に向けての課題と、交流を持つことで繋がっていきます。

それぞれの教区の課題は、婦人たちが「めぐり、めぐらす」時間の中で、生み出された繋がりの中で、新たな希望のバトンタッチであり、分かち合うというコンセプトです。

各教会の婦人は小さな巨人の群れですが、議題を語る姿は、凛として咲く花の如く思いを言葉にします。普段は気づかない思考や感情が浮かび上がります。婦人会総会は、司祭様と力を合わせ完成しました。参加者、そして連なる祈り・賛美・聴く、交わりによって満たされました。

夕食会は、司祭様との交わりそして心ほどこき、満点笑顔と力強さと、清々しさの余韻が広がりました。初代の教会が相互の交わりに熱心であったということは、キリストの体は交わりにおいて築かれる

そしてそのことは、教会はキリストの体であり、連なる私たちはその部分である、という

ことにも繋がります。繋がりによって教会も存続しました。それほど大事なことなので、使徒信経の中にこの言葉が入っているのです。神の選

びと招きによって現在ここに「聖徒の交わり」が築かれています

ことに感謝いたします。

教区婦人会長

アンナ 佐久川 正美

第75(定期)教区会後

### ■第9回常置委員会報告

日時…2026年7月9日(木)  
場所…教区センター会議室

#### I. 諸報告(教務局会より)

##### ①宣教部報告

- ・8月28日、宣教部会を予定。次年度予算案を確認する。
- ・中高生キャンプの日程を変更調整中。
- ・8月11日、南部4教会バスピクニックが行われる。
- ・9月21日、日曜学校デイプログラムを調整中。

##### ②総務部報告

- ・離島手当ての規則変更について、再検討の提案があった。近日中に総務部会を開催し、協議する。
- ・11月1日午後3時より北谷諸魂教会にて逝去者記念礼拝を予定。説教者はホリス司祭。

##### ③財政部報告

- ・7月2日に資産運用委員会、財政部会開催。6月の資産運用状況と収支を報告した。会計担当者会議で配布する資料の内容確認を行った。資料は事前配布、アンケートについては会議終了後に配布、各教会で確認・協議の後、回答を提出してもら

う。

- ・次年度の一般会計予算の各部・委員会の提出締め切りは9月25日とする。
- ・沖縄教区給与等規程・旅費支給規定改正案について、教務局会より一部追加し、再調整を求めた。

#### II. 主教連絡

- ・日本宗教者連盟、日本キリスト教連合会の理事に就任。任期は首座主教任期満了まで。

#### III. 協議事項

1. 人事の件。上原主教より諮問を受け、了承した。

2. ハワイ教区のロバート・

「フイツツパトリック」主教からの退任のお知らせと主教按手式への参加依頼の件。(正式文書は後日届く予定。) 上原主教夫妻と通訳の参加を承認する。通訳の選出は後日。主教被選者が選出されていれば追加で検討する。祝金については規定通り用意する。

3. ベッテルハイムホール空調機更新工事の件。ホールに設置されている3台中2台が故障。修繕は不可。3台同時交換が必要。更新工事を承認する。

## □ザリオと共に祈りましょう

日時：9月27日(日) 午後3時～午後4時半

場所：名護聖ヨハネ教会

- ザリオを用いてのお祈りをします。
- \*□ザリオがある方はお持ちください。
- \*□ザリオが無い方は、その場で作ることもできます。

「召天」

◆8月5日(水)

ペテロ 上原 榮一  
(愛楽園祈りの家教会)

◆8月6日(木)

ユリア 宮城 良子  
(鳥袋諸聖徒教会)

✦魂の平安を

お祈りいたします。

